

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

- - 平成 1 8 年 7 月 調査結果 - -

(平成 1 8 年 8 月 2 日)

調査期間：平成 1 8 年 7 月 2 0 日 ~ 2 6 日

調査対象：全国の 4 0 6 商工会議所が 2 5 8 4 業種組合などにヒアリング
(内訳) 建設業 3 7 9 製造業 6 2 2 卸売業 2 3 3
小売業 7 3 8 サービス業 6 1 2

調査項目：今月の売上・採算・業況などについての状況 (D I 値を集計)
及び、業界として当面する問題など

D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算 : (好転) - (悪化) 売上 : (増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 3 6
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ(<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

業況D Iは3カ月ぶりにマイナス幅縮小も、仕入コスト上昇等の懸念材料あり

7月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（27.5）よりマイナス幅が3.5ポイント縮小して24.0となり、3カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。

産業別の業況D Iは、卸売でマイナス幅が拡大したものの、他の4業種で縮小した。

景気に関する声、当面する問題としては、各業種から業況好調、売上増加、消費好調、先行き期待という声が寄せられている一方、依然として原油・素材価格の高騰による仕入・輸送コストの上昇、受注の減少等による景況の停滞感、天候不順による来店者数の減少など消費の低迷、借入金利上昇による資金繰り悪化に対する懸念など先行き不安を訴える声も聞かれる。

【建設業】では、「工事の発注時期を迎えて受注量が増えており、受注金額は低いものの、経営状態が少しは改善する見込み」（建築工事）、「この時期は大体受注が増える時期であり、売上が増加している」（一般工事）との声がある一方、「原油価格高騰により資材の仕入価格や輸送費が上昇しており、当分の間、業況は低迷したままと思われる」（一般工事）との声も寄せられている。

【製造業】では、「婦人服向け製品は一服感があるものの、輸出向け製品や浴衣などを中心に堅調な推移を見せている」（織物製造）、「工作機械や自動車関連の受注は好調を維持しており、この勢いは今年一杯続くと予想している」（非鉄素形材製造）との声がある一方、「受注減少に加え、原油・原材料価格の高騰による仕入コスト上昇分を価格転嫁できない状況が続いている」（金物類製造）とのコメントに加え、「原油価格高騰に加え、借入金利上昇も利益圧迫要因になりつつある」（茶・コーヒー製造）と、金融機関からの金利上昇を懸念する声も寄せられている。

【卸売業】では、「少々ではあるが、業況は好転への動きを見せ始めた」（その他の卸売）との声がある一方、「多くの会員企業で売上高が対前年同月比で減少しており、景気回復の実感に乏しい」（各種商品卸売）とのコメントのほか、「借入金利の上昇が予想されることから、今後、資金繰りで苦慮するだろう」（食料・飲料卸売）と、金融機関からの借入金利上昇による資金繰り悪化を懸念する声が寄せられている。

【小売業】では、「違法駐車取締強化や雨天の影響で来店者数は減少するものの、所得の増加などを背景に売上は好調」（商店街）との声がある一方、「原油高やゼロ金利政策解除で予想される借入金利上昇によるコスト上昇分をどうやって吸収するかが課題」（百貨店）とのコメントのほか、「梅雨の長期化による来店者数の減少で売上が落ち込んでおり、非常に苦しい状況に追い込まれている」（その他の小売）と、天候不順による悪影響を訴える声も寄せられている。

【サービス業】では、「定年退職を迎えつつある団塊世代の消費活動が活発化している感がある」（旅館）との声がある一方、「原油相場が1バレル70ドルを超える水準で推移しており、国内の軽油価格に大きな影響を与えている」（運送業）と原油価格高騰による影響を訴えるコメントのほか、「梅雨が長引いているため、例年よりも来店者数が少なく売上が落ち込んでいるとともに、日照不足の影響で野菜の仕入価格が上昇している」（他の一般飲食店）と、天候不順による悪影響を訴える声が寄せられている。

売上面では、全産業合計の売上DIは、マイナス幅が1.7ポイント縮小して19.1となり、2カ月ぶりに縮小した。産業別にみると、DI値のマイナス幅は製造、卸売で拡大したものの、他の3業種で縮小した。

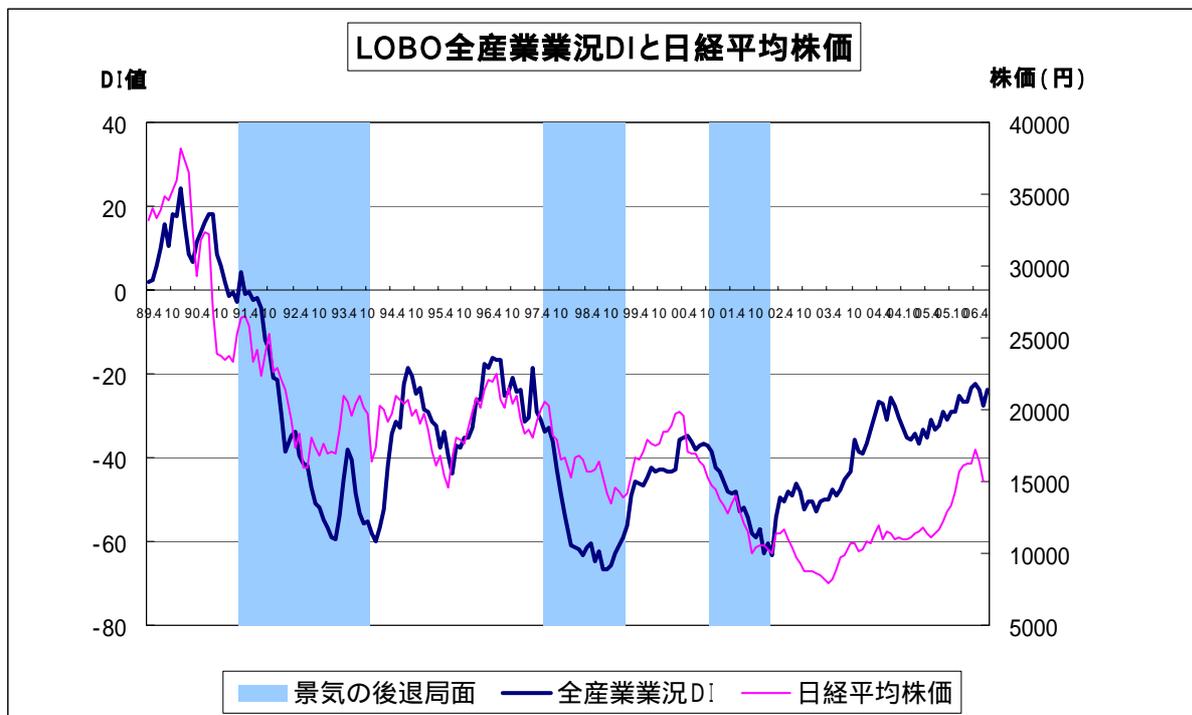
採算面では、全産業合計の採算DIは、マイナス幅が2.7ポイント縮小して27.0となり、3カ月ぶりに縮小した。産業別にみると、DI値のマイナス幅は卸売、サービスで拡大したものの、他の3業種で縮小した。

資金繰り面では、全産業合計の資金繰りDIは、悪化超感が0.6ポイント弱まって17.7となり、3カ月ぶりに弱まった。産業別にみると、DI値の悪化超感の小売、サービスで強まったものの、他の3業種で弱まった。

仕入単価面では、全産業合計の仕入単価DIは、上昇超感が1.4ポイント強まって28.5となり、4カ月連続で強まった。仕入単価DIは、平成3年5月の調査開始以来の最低値であった前月水準(27.1)よりもさらに上昇超感が強まった。産業別にみると、DI値の上昇超感サービスで弱まったものの、他の4業種で強まった。

従業員面では、全産業合計の従業員DIは、過剰超感が0.7ポイント弱まって1.4となり、3カ月ぶりに弱まった。産業別にみると、DI値の過剰超感建設で弱まり、卸売で強まった一方、製造で不足超感に転じるとともに、小売とサービスでは不足超感が強まった。

向こう3カ月(8月~10月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI(今月比ベース)が21.3と、昨年同時期の先行き見通し(26.6)に比べて改善している。



【業況についての判断】

7月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（ 27.5 ）よりマイナス幅が3.5ポイント縮小して 24.0となり、3カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。

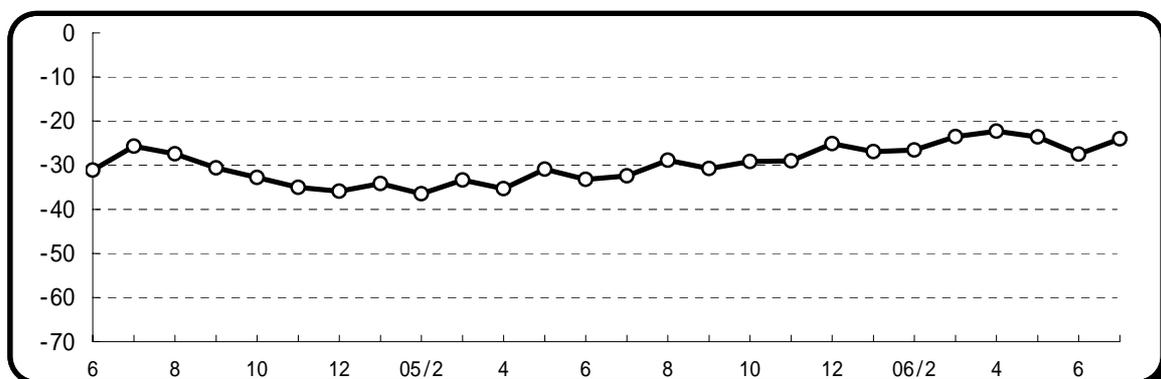
向こう3カ月（8月～10月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I（今月比ベース）が 21.3と、昨年同時期の先行き見通し（ 26.6 ）に比べて改善している。

業況D I（前年同月比）の推移

	18年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8～10月
全産業	26.6	23.5	22.3	23.6	27.5	24.0	21.3 (26.6)
建設	37.3	36.4	40.7	40.0	44.1	36.5	34.3 (36.5)
製造	12.7	10.7	11.5	10.5	16.1	8.3	14.1 (15.6)
卸売	35.7	33.3	25.5	32.3	31.5	31.8	26.3 (27.5)
小売	26.6	21.6	18.3	22.4	23.4	22.4	16.9 (29.1)
サービス	30.8	27.8	26.1	24.6	32.5	31.4	23.7 (28.6)

「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しD I
（ ）内は昨年7月の先行き見通しD I <以下同じ>

《業況D I（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

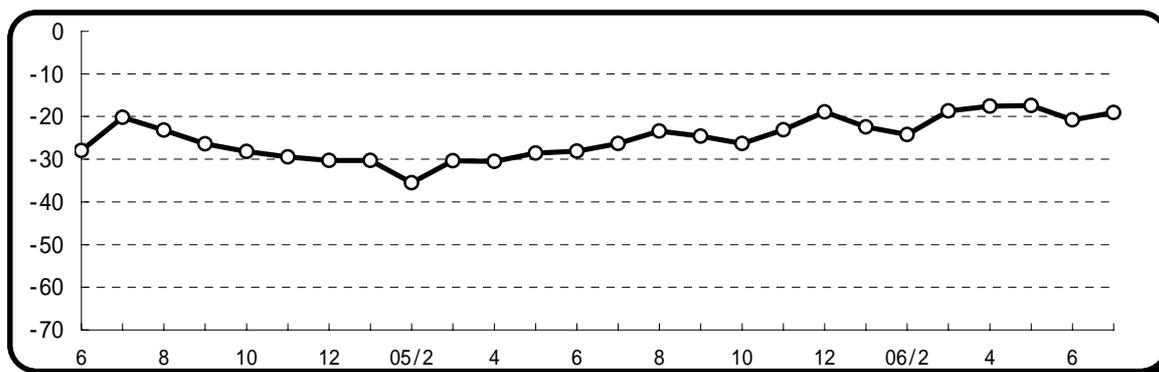
売上面では、全産業合計の売上D Iは、マイナス幅が1.7ポイント縮小して19.1となり、2カ月ぶりに縮小した。産業別にみると、D I値のマイナス幅は製造、卸売で拡大したものの、他の3業種で縮小した。

向こう3カ月(8月～10月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I(今月比ベース)が14.8と、昨年同時期の先行き見通し(19.7)に比べて改善している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	18年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8～10月
全産業	24.2	18.7	17.6	17.4	20.8	19.1	14.8 (19.7)
建設	35.7	33.3	35.8	37.0	38.3	30.9	25.9 (32.5)
製造	4.5	0.0	1.4	0.9	2.3	3.2	6.0 (5.3)
卸売	34.4	34.0	28.8	31.1	23.5	25.5	21.8 (22.8)
小売	29.3	20.6	18.8	20.8	23.4	20.9	13.7 (25.0)
サービス	27.6	21.3	17.4	14.5	25.4	23.4	15.2 (19.5)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

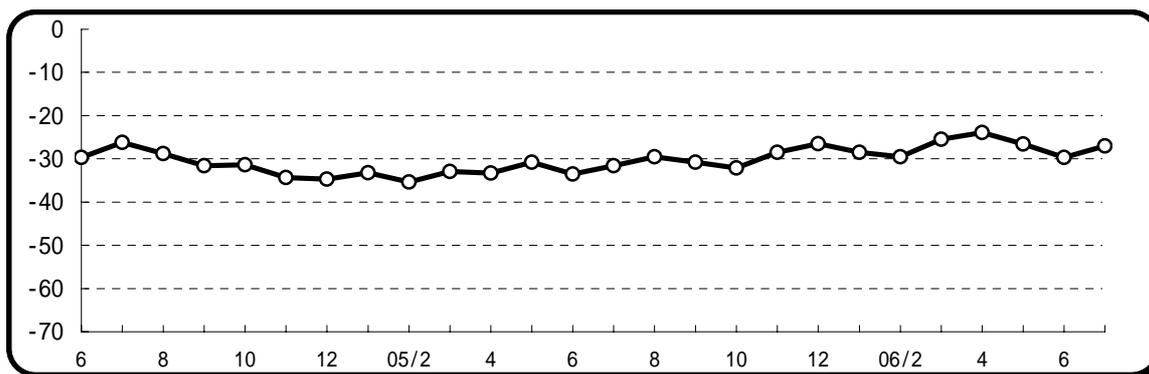
採算面では、全産業合計の採算D Iは、マイナス幅が2.7ポイント縮小して27.0となり、3カ月ぶりに縮小した。産業別にみると、D I値のマイナス幅は卸売、サービスで拡大したものの、他の3業種で縮小した。

向こう3カ月(8月～10月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が21.6と、昨年同時期の先行き見通し(25.0)に比べて改善している。

採算D I (前年同月比) の推移

	18年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8～10月
全産業	29.5	25.5	23.9	26.6	29.7	27.0	21.6 (25.0)
建設	43.7	41.0	41.1	45.6	46.6	37.1	33.6 (35.9)
製造	18.8	14.5	16.4	21.8	24.3	17.9	16.7 (21.1)
卸売	26.6	25.8	25.0	30.5	26.5	32.5	26.3 (23.4)
小売	28.8	23.2	17.4	21.4	26.1	23.0	14.6 (22.5)
サービス	33.6	30.0	28.5	24.1	30.4	32.6	25.7 (26.0)

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	18年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8~10月
全産業	19.4	18.3	17.1	17.8	18.3	17.7	17.1 (18.1)
建設	32.8	31.6	30.0	32.2	34.1	28.9	29.0 (32.8)
製造	10.5	12.2	11.8	11.7	12.4	10.9	14.2 (14.5)
卸売	17.1	16.7	10.6	17.0	17.4	15.8	16.4 (10.7)
小売	18.0	14.5	12.7	15.0	13.6	15.0	11.4 (16.6)
サービス	22.8	21.6	21.6	17.9	19.6	21.8	19.4 (17.3)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計は悪化超感が3カ月ぶりに弱まった。産業別にみると、小売、サービスで悪化超感が強まったものの、他の3業種では弱まった。

【先行き見通しD I】全産業合計は悪化超感が弱まる見通し。産業別にみると、卸売、サービスで悪化超感が強まるものの、他の3業種では弱まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	18年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8~10月
全産業	19.6	19.6	21.7	24.5	27.1	28.5	23.9 (15.1)
建設	25.7	26.3	27.8	37.3	37.4	38.6	33.1 (21.6)
製造	34.6	33.3	39.3	38.4	41.3	42.3	32.5 (23.4)
卸売	9.1	11.9	19.4	25.0	27.2	36.9	32.1 (18.6)
小売	7.9	7.4	8.0	10.0	13.5	14.3	13.8 (6.9)
サービス	18.3	18.9	16.2	19.7	21.8	21.2	17.8 (10.7)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計は上昇超感が4カ月連続で強まった。産業別にみると、サービスで上昇超感が弱まったものの、他の4業種では強まった。

【先行き見通しD I】全産業合計は上昇超感が強まる見通し。産業別にみても、全業種で上昇超感が強まる見通し。

従業員 D I (前年同月比) の推移

	18年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8～10月
全産業	1.2	0.7	0.6	1.7	2.1	1.4	2.4 (4.6)
建設	17.6	16.5	16.3	21.9	19.0	18.2	13.3 (17.4)
製造	1.6	1.6	1.1	2.3	1.8	0.7	5.6 (5.4)
卸売	1.3	1.3	3.8	3.7	4.9	8.9	9.6 (8.1)
小売	3.9	6.4	7.6	6.7	5.4	6.6	6.3 (0.4)
サービス	0.3	2.0	4.2	2.4	0.2	1.0	0.5 (0.0)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比 D I】全産業合計は過剰超感が弱まった。産業別にみると、建設で過剰超感が弱まり、卸売で強まった一方、製造で不足超感に転じるとともに、小売、サービスでは不足超感が強まった。

【先行き見通し D I】全産業合計は過剰超感が弱まる見通し。産業別にみると、製造、卸売で過剰超感が強まるものの建設で弱まり、小売、サービスで不足超感が強まる見通し。

【平成18年7月の景気キーワード】

回復への動き

各業種から、業況好調、売上増加、消費好調、先行き期待という声が寄せられている。「民間住宅着工戸数が、わずかではあるが上昇傾向にある」(帯広・建築工事)、「少しずつ工事を受注できるようになり、先行きの見通しも明るくなった」(因島・一般工事)との声のほか、「デジタル家電や自動車部品、メモリーカードなどの受注は依然高い水準を保っている」(中野・工業用プラスチック製造)とのコメントも寄せられている。また、「取引先店舗の売上高が伸びて当社からの出荷も増えており、今後しばらくは好調を維持できると考えている」(玉名・農畜産水産物卸売)、「来店者数、販売単価が前年同月を上回っており、景気回復による所得増加が旺盛な購買意欲、積極的な消費活動へとつながったものと思われる」(静岡・百貨店)と消費好調を指摘する声のほか、「市内の工場で行われている設備の定期点検関係者が大量に宿泊しており、売上は前年同月比で増加している」(今治・旅館)とのコメントも寄せられている。

悪化への懸念

一方で、各業種から、引き続き業況低迷や資金繰りの悪化など先行きへの懸念を訴える声も寄せられている。建設、製造、卸売からは「資金を借り入れる際、金融機関から受注計画の提出を求められるが、公共事業の激減で受注計画が立てられず、資金調達もままならない」(甲府・一般工事)、「仕入価格や借入金利の上昇に対して販売価格を値上げすることは困難であり、採算は悪化する見込み」(山形・鉄素形材製造)、「今後、借入金利がどの程度上昇するのかが不透明であり、資金繰りへの影響が心配である」(倉吉・農畜産水産物卸売)との声が寄せられている。また、小売、サービスからは、「今月は雨の影響を受けて家電・夏物衣料の売上が不振であるとともに、野菜や果物の仕入価格が値上がり傾向にある」(赤穂・百貨店)、「梅雨が長引いて天候が悪い日が続いたせいか、冷たい飲料の売上が悪く、今後の売上増加は期待できない」(川之江・他の一般飲食店)とのコメントが寄せられている。

仕入・輸送コスト上昇

また、引き続き、原油・素材価格の高騰等による仕入・輸送コストの上昇を訴えるコメントが寄せられている。建設、製造からは、「発注が出始めたものの昨年度より件数が減少しているとともに、原油価格高騰により関連製品の仕入コストが上昇し始めている」(柳井・土木工事)、「一昨年より7回もの原材料仕入価格の値上げが行われた一方、販売先との納入価格引き上げ交渉は難航している」(岐阜・その他プラスチック製造)との声が寄せられている。また、卸売、小売、サービスからも「銅製品の仕入コストの上昇幅が大きく、得意先への納入単価の引き上げ交渉が必要」(三木・その他卸売)、「原油価格高騰による包装資材の仕入コスト上昇で販売単価を上げたが、買い控えを誘発して売上は下落傾向にある」(東海・百貨店)、「依然として原油価格高騰の影響を受けており、状況は厳しさを増している」(帯広・自動車整備)といったコメントが寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年	月	景気キーワード		
18年	5月	回復への動き	悪化への懸念	仕入コスト上昇
	6月	回復への動き	悪化への懸念	仕入・輸送コスト上昇
	7月	回復への動き	悪化への懸念	仕入・輸送コスト上昇

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などについての自由回答をまとめたもの。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況D Iは2カ月ぶり、売上・採算D Iは4カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「工事の発注時期を迎えて受注量が増えており、受注金額は低いものの、経営状態が少しは改善する見込み」(建築工事)「この時期は大体受注が増える時期であり、売上が増加している」(一般工事)との声がある一方、「受注価格が低迷している中で、受注量が多い業者と少ない業者の二極化が進んでいる」(管工事)「原油価格高騰により資材の仕入価格や輸送費が上昇しており、当分の間、業況は低迷したままと思われる」(一般工事)といった声も寄せられている。
製 造	業況D Iは2カ月ぶり、採算D Iは4カ月ぶりにマイナス幅が縮小し、売上D Iは2カ月連続で拡大した。「婦人服向け製品は一服感があるものの、輸出向け製品や浴衣などを中心に堅調な推移を見せている」(織物製造)「新規受注が増加傾向にあり、現在の好況は今年一杯続くと予想している」(工業用プラスチック製造)「工作機械や自動車関連の受注は好調を維持しており、この勢いは今年一杯続くと予想している」(非鉄素材製造)との声がある一方、「受注減少に加え、原油・原材料価格の高騰による仕入コスト上昇分を価格転嫁できない状況が続いている」(金物類製造)「原油価格高騰に加え、借入金利上昇も利益圧迫要因になりつつある」(茶・コーヒー製造)といった声が寄せられている。
卸 売	業況・売上・採算D Iともに2カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「在庫の圧縮が順調に進んでおり、来月以降の先行きは期待できるのではないかと」(鉱物金属材料卸売)「少々ではあるが、業況は好転への動きを見せ始めた」(その他の卸売)との声がある一方、「多くの会員企業で売上高が対前年同月比で減少しており、景気回復の実感に乏しい」(各種商品卸売)「借入金利の上昇が予想されることから、今後、資金繰りで苦慮するだろう」(食料・飲料卸売)といった声が寄せられている。
小 売	業況・売上・採算D Iともに3カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「違法駐車取締強化や雨天の影響で来店者数は減少するものの、所得の増加などを背景に売上は好調」(商店街)「今年度は浴衣の需要が増加するなど、景気回復の時流によようやく追いついた感がある」(その他の小売)との声がある一方、「原油高やゼロ金利政策解除で予想される借入金利上昇によるコスト上昇分をどうやって吸収するかが課題」(百貨店)「梅雨の長期化による来店者数の減少で売上が落ち込んでおり、非常に苦しい状況に追い込まれている」(その他の小売)「今年は雨天の日が多いために入出が少なく、夏物衣料の売れ行きが悪いようだ」(商店街)といった声が寄せられている。
サービス	業況・売上D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が縮小し、採算D Iは2カ月連続で拡大した。「定年退職を迎えつつある団塊世代の消費活動が活発化している感がある」(旅館)「売上が昨年同月比でわずかに減少したものの、今までの業況低迷からの脱却へ向けた動きが感じられる」(理容)との声がある一方、「天候不順により飲料製品の輸送が大幅に減少しているとともに、宅配便による輸送需要も個人・法人ともに低調」(その他サービス)「原油相場が1バレル70ドルを超える水準で推移しており、国内の軽油価格に大きな影響を与えている」(運送業)「梅雨が長引いているため、例年よりも来店者数が少なく売上が落ち込んでいるとともに、日照不足の影響で野菜の仕入価格が上昇している」(他の一般飲食店)といった声が寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I (前年同月比ベース)は、近畿でマイナス幅が拡大したが、他の8ブロックで縮小した。なお、全ブロック合計は3カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。

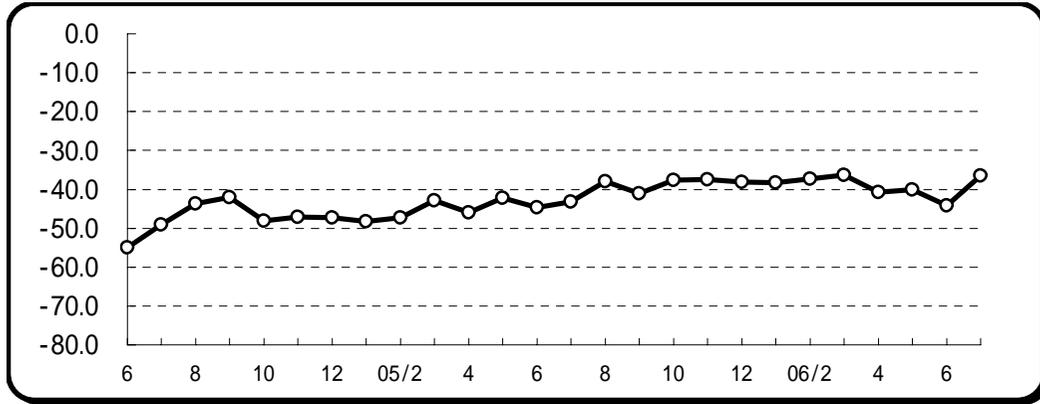
ブロック別の向こう3カ月(8月~10月)の業況の先行き見通しは、昨年同時期と比べて、四国で悪化したものの、他の8ブロックで改善した。

ブロック別・全産業業況D I (前年同月比)の推移

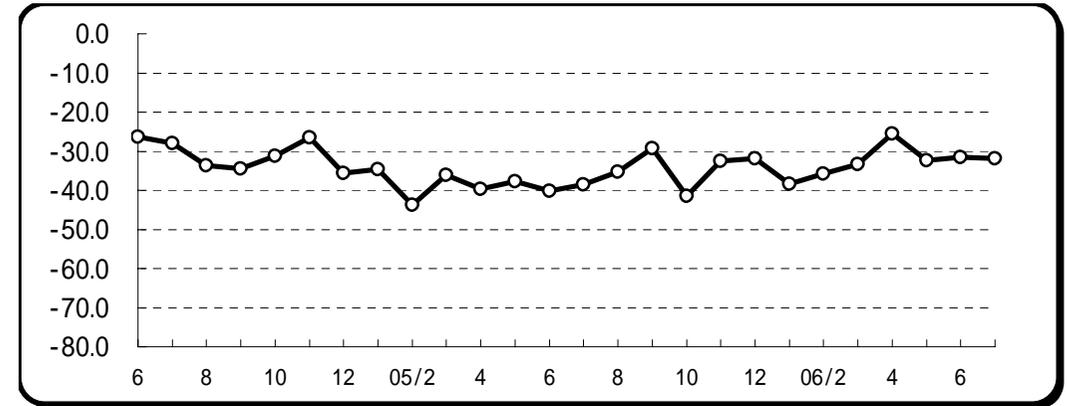
	18年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8~10月
全 国	26.6	23.5	22.3	23.6	27.5	24.0	21.3 (26.6)
北海道	35.4	33.6	29.3	29.4	36.2	20.4	22.1 (28.0)
東 北	25.2	27.9	29.6	30.3	33.8	22.4	19.1 (27.7)
北陸信越	28.0	22.7	23.7	17.3	25.1	20.8	14.4 (23.5)
関 東	21.0	19.3	15.7	21.1	22.6	21.6	18.8 (22.9)
東 海	17.2	14.3	15.0	20.8	22.6	17.9	19.6 (29.6)
近 畿	32.2	26.5	22.1	25.4	28.5	30.1	29.2 (32.7)
中 国	41.4	27.0	26.5	26.9	31.9	30.0	28.5 (30.2)
四 国	33.3	31.0	36.7	29.0	40.0	38.1	26.6 (25.2)
九 州	19.2	21.0	21.1	20.2	21.0	19.1	16.9 (23.2)

業況D I（前年同月比）の推移（全国）

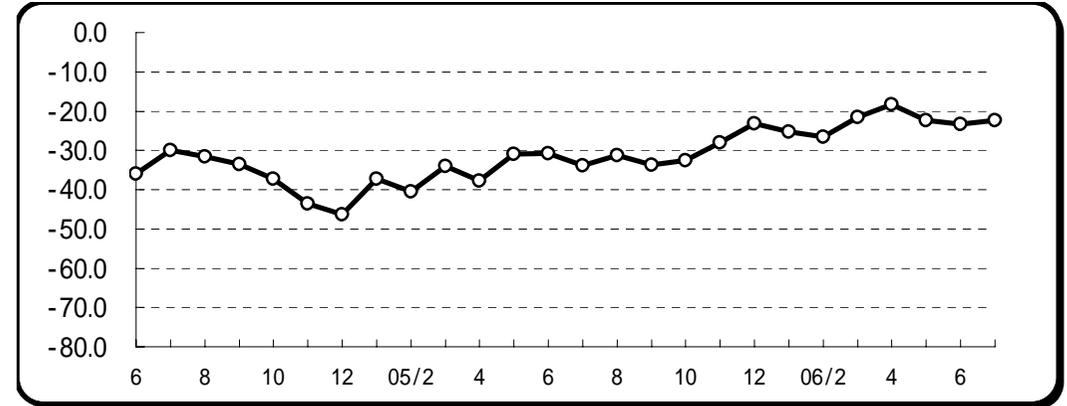
建設業



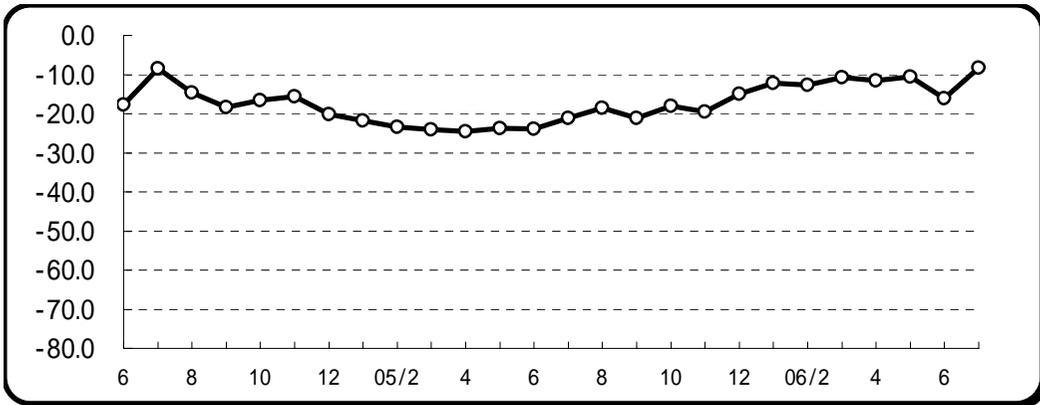
卸売業



小売業



製造業



サービス業

